

# 岡崎市中央図書館大量アクセス事件の概要

岡崎市立中央図書館の新着図書ページのデータを取得するため、クローラと呼ばれるプログラムを利用していた中川圭右氏が、2010年5月25日愛知県警に逮捕され、20日間の勾留・取り調べの後に、起訴猶予処分となり釈放された一連の事件

# 岡崎市中央図書館大量アクセス事件の問題点

## 中川氏擁護側

- プログラムを書く人にとって、この程度のことは容易であり、そのことで逮捕・勾留されるのは恐怖である
- 図書館側に勝手な被害者意識があり、被害者届を出せば相手が逮捕されるかもしれないという認識が欠如していた
- 図書館側の勝手な被害者意識があり、被害者届を出せば相手が逮捕されるかもしれないという認識が欠如していた
- 当然の利用によって告発された中川さんへの反省が図書館側に全く見られない

## 図書館擁護側

- 図書館はIT専門家の支援を受けていないため仕方のないことだ

# 事件から得られた教訓

- 客観的評価をせずに主観的判断を鵜呑みにしたことが事件の発端となることがある
- 技術は日々進化していくものであり、新しい知識をその都度、備えておく必要が私たちに求められている